

令和6年度上期「ひょうご子ども・若者応援団」一般助成事業成果報告

事業期間 令和6年4月～令和6年9月

写真掲載については許可を頂いた団体のみ掲載しております

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
1	特定非営利活動法人 ほっとネット373 (西播磨)	<p>① 佐用アサギマダラ保護事業</p> <p>② 5月1日 法人会において事業取り組みについて説明し、実施の承認を得た。 5月2日 上月小学校で法人役員、担任先生と事業の具体的内容について、説明と確認を行う。 5月8日 上月小学校において、環境学習とアサギマダラの生態、フジバカマについて学習会を行う。 5月16日 フジバカマの挿し習会を上月小において行う。 法人会員と生徒により、挿し木苗をつくる。 6月25日 宇根集落の棚田において法人会員、集落住民、子どもによるフジバカマの植え付けを行う。 6月26日 生徒持ち帰り用フジバカマの苗を小学校へ持っていくとともに育て方資料を渡す。 7月～9月中旬まで 草刈り、除草、追肥等の管理を行う。</p>  <p>10月10日 宇根集落の棚田においてアサギマダラ観察会を法人会員、住民、子どもと行う。アサギマダラの観察と羽にマーキングを全員が行う。</p> <p>③ この事業は聞く学習ではなく、自分で挿し木、植え付け、観察を自然の中で体験することで将来、大人になっても貴重な思い出と</p> 

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		なる他、自分の生まれた町に誇り、プライドを持てる人に育つことを目指したものですので、現時点では体験による自然の素晴らしさや 2000km も旅する蝶の命について考えることが出来た。特にマーキングでは羽を痛めることは命に係わる事を説明すると多くの反応があった。
2	じいちゃんの手づくりおもちゃ (阪神南)	<p>①じいちゃんの手づくりおもちゃ</p> <p>②1. 日時 2. 場所 3. イベント名 4. 作る物 5. 対象者 ○○人 とします。</p> <p>(作った物 A.水鉄砲 B. ヤジロベー C.ストラップ D.風車 E.ぴよん子ちゃん F.スーパーロケット G.流れ星 H.パック ごま J.イライラ棒)</p> <p>1 1. 5/17(金) 2. 県立尼崎小田 高等学校 3. じいちゃんの出前 教室 4. B.C.D.E. F. G. 5. 高校生 . 高校生 60人(30 人+30人)</p> <p>2 1. 5/29(水) 2. 県立尼崎小田高等学校 3. じいちゃんの出 前教室 4. B.C.D.E. F. G. 5. 高校生 40人</p> <p>3 1. 7/3(火) 2. たちばな保育園 3.水鉄砲作り 4. A.G. 5. 園児 15人</p> <p>4 1. 7/23(火) 2. 百合学院小学校 3. 夏休み工作教室 4. A~G.まで 5. 小学生 25人</p> <p>5 1. 7/26(金) 2. 長洲小学校 3. 夏休み工作教室 4. A~G.まで 5. 小学生 65人</p> <p>6 1. 7/29(月) 2. 浦風小学校 3. 夏休み工作教室 4. A~G.まで 5. 小学生 71人</p> <p>7 1. 8/1(水) 2. 小田南生涯学習プラザ 3. 出前教室 4. A~G.まで 5. 幼児、小学生 66人</p> <p>8 1. 8/5(月) 2. 杭瀬小学校 3. 夏休み工作教室 4. A~G.まで 5. 小学生 58人</p> 

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>9 1. 8/9(金) 2. 学文公民館 3. 夏休み工作教室 4. A~Jまで 5. 幼児、小学生 42人</p> <p>10 1. 9/10(火) 2. 阪神南県民局 3. おもちゃの研修会 4. ヒンメリ 5. 成人 20人</p> <p>③ 県立尼崎小田高等学校には、手づくりおもちゃの出前教室を2日間(3校時)計90人に指導をしました。その生徒たち一緒に夏休み工作教室に出向きました。 そこで研修を受けた生徒たちが、夏休み工作教室にお手伝いをしてくれました。担任の先生方にも評判がよく、生徒たちのも大変受けが良かったです。スタッフが教えるより高校生の教え方が上手だったとの一言も頂きました。高校生さまありがとうございました。 小学校夏休み工作教室では、水鉄砲作りと他に5点ほど(例年より3点多い)おもちゃ作りが予定していましたので、例年より10~20人ほど多くの生徒たちが来ました。</p> 
3	佐野和太鼓クラブ (淡路)	<p>① 和太鼓でつなごう! 深めよう! 地域の絆</p> <p>② ・毎週日曜日 15~17時、講師をお招きし、さの小テラス(体育館及び音楽室)での和太鼓講座の開催(代表久保田が指導した日は、上記事業日の中には計上していない)。和太鼓体験会も開催し、世代を超えて和太鼓や、日本の伝統文化に触れる機会を提供した。 ・講師にきてくださっているパソナ和太鼓集団「鼓淡」(古谷優介氏)、「國生み太鼓保存会」(柏木秀樹氏)他、滋賀の和太鼓集団「彩」、南あわじ市で活躍する「美鼓音」等もお招きし、和太鼓講座や、佐野和太鼓クラブとの合同演奏会を開催し、お互い切磋琢磨しあった。 ・地域のイベントに出演し、地域住民との交流、イベントの盛り上げに貢献できた。チラシを配布したことで今まで以上に知名度も</p> 

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p> <p>上がったのか声をかけていただける機会が増え、4～9月で12回も地域イベントに出演する機会を得た。</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントに招かれて出演したことで、今まで知らなかった地域のイベントを知ったり、観光施設に足を運んだりする機会となり、住んでいる地域の再発見をすることができた。 ・和太鼓を通じて新しい友だちができた。また息を合わせて演奏したり、舞台上に立ったりすることで一体感を得、さらに仲良くなれた。人前に立つ度胸もついた。  <ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓体験会では、初めて和太鼓に触れるという方がたくさん参加しており、新たな体験の機会を提供できた。小さなお子さんから大人まで参加していた。
<p>4</p>	<p>NPO 法人 環境ユースてんま (東播磨)</p>	<p>① わくわく Night Fes</p> <p>② 兵庫大学現代ビジネス学科の2回生10名が企画を立案。 全体の配置、舞台の流れ、巨大迷路やスタンプラリーなどを担当。当日の朝からテントを立てて準備し、開催には兵庫大学以外にもトライやるウィークに参加した近隣の中学生4名やボランティアの大学生、高校生も加わった。 そうめん流しを中心にし、屋台に見立てたお店は、ストラックアウトや射的、ものづくりのワークショップや駄菓子屋さん、外来種駆除啓発や巨大迷路などがあり、大学生が本部と舞台を仕切り、司会進行を務めおおいにイベントを盛り上げてくれた。 暗くなってからはライトアップなども模様された。 ライトアップではボランティアの大学生たちがしかけから解説まで行った。</p> <p>③ 初めての夜開催のイベントで、ボランティアが集まるかなどの懸念があったが、大学生が率先して事業をけん引してくれた。</p> 

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		 <p>青少年たちが受付や夜店、司会をして事業が活気に満ち溢れたことは彼らにとってとてもよい経験になり、達成感を感じることができたと思われる。</p> <p>そのことが、今後の地域社会において、彼らがどのように振舞っていけばいいのかの大きな指針になったと思われる。</p> <p>高校生たちが「楽しかった！来年は大学生だけど、また、やりたい」と言っていた。</p>
5	西播磨地域レク指導者協会 (中播磨)	<p>① 中播磨圏域留学生とのレク交流と世界の料理</p> <p>② 留学生を福崎町青少年野外活動センターに招待し、山や池等自然の中で初心者向けのカヌー教室やラダーゲッター、皿回し、シャボン玉、折り紙など日本の遊びやニュースポーツによるレクリエーションを体験することにより、日本の文化に触れたりスタッフとの交流を図ったりした。</p> <p>また、昼食においては、留学生のお国自慢料理として、ベトナムのお好み焼きパインセオとスリランカカレーを手作りしていただき、食事を通じての交流を図ることができた。</p> <p>③ 色んな国からの留学生に対し、言葉の壁をレクリエーション主体のコミュニケーションで言葉が通じなくても心が通じ合い、留学生とレク協会スタッフとの交流及び活性化を図ることができた。ただ一つ残念な点として、姫路獨協大学と兵庫大学の学生のスタッフ参加を予定していたところ、学内イベントがあり、学生の参加がなかった点が悔やまれる。</p>   <p>閉講式時に参加留学生にイベントの感想を聞いたところ、全員が「楽しかった！」と満足していただけたのが印象的で、今後もできる限り継続事業となるよう検討したい。</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
6	丹波小学生 バレーボール協会（中播磨）	<p>① 丹波竜ちーたんカップ</p> <p>② 丹波市小学生バレーボール協会設立46年目を迎え、市内全チームと市外からの招待チームの参加をいただき、バレーボールを通じて小学生の豊かな心をはぐくむと共に健やかな成長を願い、親睦とバレーボール技術の向上をはかる。</p> <p>③ 少子化により各地区のチーム数が減少する中、普段交流することのないチームと対戦することで、親睦をはかり、丹波市内チームのPRができた。 また、多くの大人と接することで、小学生のマナー向上の場にもすることもできた。</p> 
7	一般社団法人 リア充ひょうご (阪神南)	<p>① 獲って触って食べて大感動! 地引網と自然体験</p> <p>② 10:00 オリエンテーション 企画内容とスケジュールの確認 10:15 瀬戸内海の水産資源について(レクチャー) 兵庫県環境部水大気課里 豊かな海再生推進官 10:30 地引き網 開始 11:00 生け捕った獲物の観察及び解説 海洋生物専門家によるレクチャー 12:00 魚のおろし実演 魚職人による実演 12:30 実食タイム 海鮮丼(刺し身、須磨海苔、県産米)、雑魚汁 13:30 火起こし体験 一本の丸太とロープを使って全員で火起こし</p> <p>③ 〇多種多様な海洋生物が獲れ、実際に手で触り、海洋生物専門家によるレクチャーを受けることで、兵庫の海のゆたかさを知り、自然や環境、漁業を身近に感じてもらった。</p> 

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
<p>8</p>	<p>灘地区青少年育成協議会 原田中学校支部（神戸）</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>① 伝統芸能交流プロジェクト・若者と地域の絆を深める</p> <p>② 参加者の募集は、神戸市立原田中学校とその校区内の4つの小学校へ依頼し、学校連絡システム「すぐる」での発信、及びその地域内の老人会や、地域の方々への案内とチラシ配布により行った。実施場所の船寺神社では、2年前から毎年夏に「船寺能楽こども教室」として、短期間の能楽体験教室を開催しており、今回の会場として提供してもらった。参加者に本格的な伝統芸能を体験してもらうために、外部講師として代々能の家柄であり、現在プロの能楽師として活躍中の笠田祐樹氏を始めとする、笛、小鼓、太鼓の演者にお越しいただく。まずは外部講師から能の歴史や楽器、舞などについての説明を聞く。クイズ形式で説明していただき、子どもたちの関心を高める工夫がされていた。その後、4つのチームに分かれ、能面を付ける体験、笛・小鼓・太鼓の楽器を体験した。参加者がすべての体験をしたところで、実際に能がどのようなものなのかを体験するため、プロによる仕舞い『敦盛』を鑑賞した。</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>○獲れた魚をさばき、須磨海苔などとともに食することで食育を育み、地産地消を体験した。</p> <p>○火起こし体験で火を起こす感動を全員で味わえた。自然界における摩擦のエネルギーについて、体験を通して学ぶことができた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;"> <p>③ 体験を通して、青少年の文化的な理解や興味を深めることができた。参加された小さなお子さんにとっては自国の文化に対する興味を、中高生や大人の参加者にとっては自国の文化や歴史への造詣を深めることで、国際社会において必要とされる自国への教養と知識と体験を深めることができたと思われる。</p> </div> <div style="width: 45%;">   </div> </div>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		また、小さなお子さんとその保護者、中学校区内の小中学生、地域住民が共通の体験を通して共同体の一員としての意識を高めることができた。この出会いの場により、日常生活の中でお互いの声かけや挨拶がしやすいコミュニティ形成に役立ち、ひいては防犯へも繋がるものと考えている。
9	ボーイスカウト伊丹第5団 (阪神南)	<p>① ぼうけんごっこ</p> <p>② 1回目の6月9日が雨のため延期となり、7月14日は同じ場所が確保できず、テーマを変更し「はじめてのアウトドアたいけん」としてこのいけ幼稚園の園庭にて実施。 以下、すべて野外で実施 ○アイスブレイクゲーム ○家型テントの設営 ○グループ別に野外ゲームコーナー ○野外料理・・・カートドックとカップ目玉焼き（オープン料理） ○モンキーブリッジ ○全体の野外ゲーム</p> <p>③ ＜参加者の感想＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが飽きずに純粋に楽しめるものを準備されていると感心しました。 ・突如発生した待ち時間も子供たちが興味を持って楽しんでいて良かったです。 ・野外料理も親がいなくても積極的に自分で動けていました。 ・今どうすれば、何をすればよいかを考えて行動するよい機会になりました。 ・子供たちが生き生きと過ごしており貴重な体験ができたと感じました。 ・子供たちがワクワクするように遊びが提供されていることに感銘しました。
10	佐用子ども将棋教室 (西播磨)	<p>① 第9回脇坂安宅杯争奪将棋トーナメント</p> <p>② 近年、日本の伝統文化「将棋」に興味を示す未就学の子どもから小学生、中学生、高校生が増えています。 当教室にも、親子同伴で将棋を習いに来る人数も年々増加傾向で、家庭内でも、家族で夢中になっているようです。</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>それぞれに将棋力向上を目指し、教室や大会、イベントに参加しています。</p> <p>人と人との関わりにおいて、行儀、作法を身に付けます。</p> <p>③ 大会に初めて参加した子が「とても楽しかった。また参加したい。」と言って、次回も来てくれます。</p> <p>学校や家庭では経験できない緊張感や充実感、達成感が夢中になる要素だと考えています。</p> 
1 1	わかば子ども食堂 (阪神南)	<p>① 青少年の社会参加、リーダー育成、世代間・地域間交流</p> <p>② イベント当日、朝 8 時から会場の機材搬入や大型テントの設営など、約 60 人の中学校の生徒さんが参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午後から小学生は、焼きそば・ジュース販売ブースで販売スタッフを担当 ・高校生は別ブースで自分たちの企画を実施 (レジンキーホルダーやアクセサリーの販売、ジュースの販売) <p>③ 設営班 複数のグループに分かれ、その中で自然とリーダーができ役割分担でテント設営を行っていた。</p> <p>設営後、自分たちもお祭りの参加者として来場し、自分たちが設営したテントでお店が賑わっているのを見て、達成感があると話していました。</p> <p>小学生班 普段はお客としてお祭りに参加していましたが、スタッフとして参加することで違った楽しみ方ができたようです。</p> <p>また、友達からもスタッフ T シャツを着ている姿が好評だったようです。</p> <p>高校生班 普段自分たちの活動している資料なども掲示し、お客様への活動紹介もできたようで、今後の活動につながっていくのではないかと思います。</p> 

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
12	絵本とお歌の会 (阪神南)	<p>① 平和の歌を歌おう</p> <p>② 両日：ウクライナ避難民に外部講師を要請し、戦争の苦しさ、平和の尊さを伝えて頂いた。団体代表(プロミュージシャン・兵庫県認定音楽療法士)の歌とピアノに合わせ皆で新旧の日本の歌、ウクライナの歌を歌い、演奏する。曲の背景や、思い出などを語り合い聞き合い、お互いを理解し合う。日本の戦争時代、ウクライナの現状を語り合い理解し合う。</p> <p>・21日：ウクライナ伝統の絵の技法「ペトリキフカ」を描いた。ペトリキフカは2013年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。カホン・ビブラストーンなどラテンパーカッション・タンドラム・ピアノの楽器体験を行った。</p> <p>・28日：ウクライナ伝統の絵「命の樹」を描いた。ドラム・カリンバ・ピアノ体験を行った。</p> <p>③ 絵や歌を介して子どもたちがウクライナ避難者・避難児童と接し、一人の人間として認識し交流できた。平和を自分事として捉えることができていると思われる。また、ウクライナ文化交流により、子どもも大人も異文化を受け入れることができるようになった。一緒に歌う、同じ絵に取り組むことで自然な世代間交流ができた。ドラム体験では恥ずかしがることなく、自分を表現できる姿が見られた。</p>  
13	一般社団法人 ガールスカウト兵庫県第2 団 (淡路)	<p>① 台湾・新北市ガールスカウトと淡路島の青少年の交流会</p> <p>② 淡路島の青少年と台湾からの派遣団の交流を目的とし、下記内容に沿ってプログラムを実施。</p> <p>メインプログラムとして日本らしい食の調理体験を通じよりよく文化交流ができるよう準備を行った。</p> <p>また、台湾派遣団を含む青少年が自主的に行動できるよう、班行動を基本の行動単位とした。</p> <p>参加者は、スマホの通訳機能を使用したり、ジェスチャーにてコミュニケーションをはかっていた。</p> <p>台湾語を話せるボランティアスタッフ3名を迎え、リスク管理と</p>

事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
	<p>円滑なコミュニケーションに努めた。</p> <p>【プログラム内容】</p> <p>9時50分 受付開始</p> <p>10時00分 開式</p> <p>10時05分 主催者あいさつ (当団体 森団委員長)</p> <p>10時15分 台湾理事長あいさつ</p> <p>10時25分 全体の流れ説明 注意事項</p> <p>10時35分 アイスプレイングを行い、班分け 6班 3ユニット予定(6~7名/班) 各ユニットには成人リーダー1名配置</p> <p>11時00分 班ごとに自己紹介… 伝わるように各自工夫して実施。</p> <p>11時15分 調理体験開始 ①~③の計3ブースを各30分ずつユニットごとに回る 各ブースに担当者を配置し、説明は各ブース担当が実施。</p> <p>①流しそうめん(中庭)+スイカ割 衛生面を考慮し、そうめんをつかむときは菜箸、食べる時は割りばしを使用米養面を考慮し、そうめんに食わえプチトマトも流した。 スイカ割は全員が1回する目隠しをし、体験した。</p> <p>②たこ焼き(調理実習室) タコ焼き機(カセットコンロ式)を2台を利用し、たこ焼きを焼いた。 中身はタコ、ちくわ、魚肉ソーセージなど。</p> <p>③おにぎり(研修室) おにぎりの中身を自身で選び、サララップで三角おにぎりを作成。 アルミホイルとマスキングテープを使用し日本特有のコンビニを再現した。</p> <p>~12時50分 終了 集合は3階ホール</p> 

<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
	<div data-bbox="560 203 900 651" data-label="Image"> </div> <p>13時00分～13時40分 記念クラフト作成 麻ひもを利用したウサギのクラフトと星のクラフト2種類を作成。</p> <p>13時45分～ 台湾の名産品ふるまい 冬瓜茶、ドライフルーツの説明を受けた後、参加者で頂いた。</p> <p>14時10分～14時40分 三原高等学校郷土芸能部 人形浄瑠璃体験 人形の説明を受けた。 3名ずつ前に出て、人形を実際に動かして体験を行った。</p> <p>14時45分～ 写真撮影 閉会</p> <p>15時00分 解散 ※なお、8月2日(金)～8月4日(日)の間、当団体にて台湾派遣団を受け入れ実施。合間をぬってWi-Fi環境下にて交流プログラムの打ち合わせを行った。 確認事項：タイムスケジュール、調理体験の内容、台湾側ふるまいの内容と必要備品、準備内容など</p> <p>③ 当該事業実施の成果、参加者等の評価等を簡潔に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾派遣団に日本の食文化を伝えることができた。 ・台湾派遣団からのふるまいにより、相互的に食文化を知る機会になった。 ・流しそうめんやスイカ割などを体験したことのない青少年が多く、日本の子供たちにとっても新たな経験となった。 ・人形浄瑠璃を通し、淡路島の郷土芸能を紹介し、触れることができた。 ・プログラムの空き時間には台湾語で簡単なゲームをすることができ、青少年が台湾に興味を持つ機会となった。 ・班行動を通じて言葉が通じなくても、ジェスチャーやスマホの翻訳機能を通じ、積極的なコミュニケーションを図ることができた。

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
14	兵庫県青少年団体 連絡協議会（神戸）	<p>①親子でアウトドアチャレンジ in いえしま</p> <p>②青少年活動の意義を伝える内容の保護者へのワークショップ</p> <p>○いえしま自然体験センターで実施できるアクティビティを中心とした親子での体験活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚釣り ・カヌー、カヤック ・磯遊び ・アウトドアクッキング ・自然物やロープワークなどを用いたゲーム <p>○活動を通した子どもの成長を親目線、子ども目線でふりかえるセッション</p> <p>③参加者アンケート結果</p> <p>○子ども</p> <p>Q 事業を楽しめたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しめた(100%) ・楽しめなかった(0%) ・ぜんぜん楽しめなかった(0%) <p>Q 出来なかったことができるようになったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになった(55%) ・自分なりにできた(45%) ・ぜんぜんできなかった(0%) <p>○保護者</p> <p>Q 期待していたことと活動内容が一致していたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待以上(43%) ・期待通り(57%) ・期待以下(0%) ・期待とは全く異なる(0%) <p>子どもの声</p> <p>「カヌーの乗り方がわからなかったけど、教えてくれたらできるようになった」</p> <p>「それぞれできることも違うし、できないことも違うことがわかった」</p> <p>保護者の声</p> <p>「子どものチャレンジを失敗を否定せずにとんどん応援したいと思いました。」</p> <p>「普段の生活では子どもに完璧を求めがちだが、よりよい自分になることの大切さはスタッフの方々ともどもたちとの関わり方で気づかされました。」</p>



事業実施団体
(管轄地方青少年本部)

①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果

15

のびのびキャンプ (西播磨)

①障がい児・者のための野外活動
② (4/28) 大学生ボランティアを対象とした、ボランティア育成のプログラムを実施した。自炊プログラムにおける火おこし方法を学んでもらい、実際に自炊を行った。障害特性の講義をして、次の参加者に対する理解を深めてもらった。キャンプ場周辺の散策をして、地域の特徴や危険箇所などを考察してもらい、クイズ作りをしてもらった。



(5/19) 障害特性を理解した上で、障害のある参加者の強みを活かしたり、困りごとのフォローをしながら、地元スーパーの協力の下で自炊メニューの買い物をした。それぞれの得意を活かして、野外自炊をみんなで協力し合って行った。前回の散策の下見のクイズを下に、チームに分かれてキャンプ場の外へ出てウォークラリーを実施した。

(7/14) 地元漁協組合協力の下、キャンプ場で鮎つかみ体験をして、その場で塩焼きにして食べた。その後、夏祭り行事として、手作り模擬店などを制作から体験までをしてもらった。

(9/7~9/8) テント泊による宿泊体験を実施した。自炊メニューの買い物はチームに分かれて、自分たちで支払いまで行った。テント張りを行い、地元自治会協力の下流しそうめん体験を行った。流し台や竹の器作りなど、のこぎりを使って体験してもらった。夜はキャンプファイヤーをした。2日目は朝食を野外自炊して、レクリエーションでは、チームビルディングの考えを取り入れて美化活動を行った。

③・障害のある対象者の経験数を増やし、親も体験したことのないような経験をすることで、達成感や自信に繋げることができた。

- ・会を重ねるごとにスキルアップしていき、また参加者のモチベーションを大切にする関わりから、居場所づくりに繋がった。
- ・非日常の体験が、日常で活かせるスキルとなり、災害時などの時に役立つスキルとしても身につけることができた。

・学生が学生を呼び、また後輩も参加してくれ、次世代のボランティア育成に繋がった。

・助成金があることで、参加費を抑えることができ、障害のある参加者や学生ボランティアの参加がしやすくなった。

・SNSの発信やチラシの広報により、活動に興味を持ってくれ



	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>る人が増え、参加させてみたいという障害のある参加者が増えた。 ・地元自治会や漁協組合、スーパー、キャンプ場管理の新宮スポーツセンター、地元議員など、地域の方々が理解と協力をしてくれ、障害のある人たちの社会参加や地域づくりや環境改善に繋がった。</p>
<p>16</p>	<p>芦原地区子ども会連絡協議会（阪神南）</p>	<p>①「山東自然の家」で自然を学ぼう！ ②募集は子ども会会員だけでなく3小学校に案内を配布。友人関係で周辺の学校からも参加があるので自然な交流を深めてほしい。野外活動リーダーを5人依頼し、子ども達に野外活動の楽しさを伝えてもらう。 野外炊事…包丁を使う、マッチでカマドに火をつける等、家庭や学校では出来ない体験をする。大人のサポートを極力減らし、安全の見守りのもと、自ら考えて調理を行う。またグループ活動にすることで協力と分担を体験し交流し出来上がったことの達成感を得る。 アマゴつかみ…命の大切さ「いただきます」の意味、生きることは他の命をいただいていることに気付く。魚嫌いの子供が多いが魚のおいしさに気付く。じっくり炭で焼くことでおいしくなることを知る。 自由時間には宿舎前の広場で水風船を使いみんながびしょ濡れになりおもいきり遊んだ。キャンプファイヤー…火を囲みゲームをして異年齢の仲間と親睦を深める。火の怖さを知る。リーダーのファイヤーパフォーマンスに感動してほしい。 ③参加者はアマゴつかみで魚が少しかわいそうだったけど自分で捕まえたときの達成感が良かった。 キャンプファイヤーでのリーダーのファイヤーダンスもかっこよかった。焼きそばを自分たちで作った焼きそばは出来上がって達成感があったしとてもおいしかった。 仲良くなった学校も学年も違う友達と一緒に眠れたことは楽しかったしとても嬉しかった。 アレルギーがひどくスタッフがみんなに説明してくれたことで安心して食事ができた。事前の対応大変でしたがありがとうございました。とスタッフ一同に感謝します。また、参加したい。(多数)</p>



	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
17	特定非営利活動法人 国際教養教育交流協会(東播磨)	<p>①AICC 子ども農園</p> <p>②I 環境保全勉強会 準備すること</p> <p>①参加者を募集する、参加者の人数によって、農地賃貸借契約書結んだ。</p> <p>②子どもたちが AICC 子ども農園に参加する目的と目標を達成する為の説明会として、グリーンピアハリマで、勉強会を開きました。グリーンピアハリマでの作業内容及び「廃棄物」を肥料に作ること等を見学して、環境保全の一環として理解させました。</p> <p>③農家と農業に詳しい方より、農業開始準備しました。</p> <p>II・除草と耕地</p> <p>①6年以上放置された空き農園である為、どの様に除草、耕地について、子どもたちと話し合い、農園をみて、一緒に行動しました。</p> <p>②子どもたちは各家族とともに、自分なりの農園をする前のデザインを初期設計しました。</p> <p>③子供たちは自分が育ちたい野菜を確定し、各自でその野菜の特徴、育ちに注意事項を勉強して、その植え方を指導しました。</p> <p>④作りたい夏野菜の育苗開始、畑に移植しました。</p> <p>⑤野菜育ち、成長の難しさを体験し、虫を除けなどの作業について、第2回の「農業講座」を開催する。</p> <p>⑥子供たちに定期的に野菜に水やりや追肥の作業を指導し、実践させてもらう。</p> <p>III農園を管理すること</p> <p>①子どもたちに野菜収穫するまでの育ち方を指導する。</p> <p>②野菜収穫するの準備を指導すること。</p> <p>③「スーパーで野菜を売りやすいコツ」と「子どもの営業学」を開催しました。</p> <p>IV収穫前の準備すること</p> <p>①収穫直前の準備すること、収穫祭を準備すること。</p> <p>②スーパーマーケットの野菜と自家農園の野菜のおいしさを体験させました。。</p> <p>③野菜のおいしさについて、子どもたち及び保護者たちに説明、子供たちは自分の労働価値、ものづくりの価値、そして、有機農業の付加価値を説明させてもらいました。</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>V収穫体験すること</p> <p>①収穫に関する第3回「農業講座」を開催しました。</p> <p>②農家と専門の指導を受け、収穫作業を行う、収穫祭を開催しました。</p> <p>③子供たちは自分が収穫したものを収穫祭の料理に活用します。労働の達成感及びものの価値を実感させてもらいました。</p> <p>④収穫祭には違う国、違う地域の子どもたちを招へいし、同じ食材で、国際的な料理を楽しんでもらいました</p> <p>⑤収穫後の整理整頓について、農家により、秋野菜の種蒔き、水やり等を実践しました。</p> <p>③①子どもたちと共に農業の啓蒙を通じて、農業体験しました。子どもたちが農業で、耕地、種蒔き、除草、虫捕り、水やり、追肥、収穫等を体験できました。</p> <p>②子どもたちが自分たちの手で、目で、口で、農業を楽しんでもらいました。</p> <p>③有機農業について、親子で共感させて、収穫したものを近隣の方々にシェアし、ともに楽しんでもらいました。</p> <p>④畑と川の虫捕り、生き物探し等を体験し、共生の概念を伝え、自然を大切にすることを教養しました。</p> <p>⑤同じ野菜で、育ち方が違うところで、収穫し方の違うところ等を体験できました。</p> <p>⑥子どもたちはAICC子ども農園で、収穫した食材を違う国の子どもたちとともにメニューを考え、違う料理ができました。</p> <p>⑦明治安田生命大阪本社のご応援で、野菜摂取量測定イベント開催で、野菜摂取量の大切さと野菜摂取違うところを理解させました</p> <p>⑧子どもたちに収穫祭の準備、開催までの期待、喜び、野菜収穫後一旦水やりできなくなった哀しみ等を情緒違うところ実感しました。</p> <p>⑨グローバルな視点で、国際文化と人権の交流・理解を促す為、国際人権を理解する講座開催しました。子どもたちに農作物と生き物等と同じく、人権を尊重するよう啓蒙教育を実施しました。</p>
18	うね地区まちいこし隊(西播磨)	<p>①(仮)ありなしフェスタ</p> <p>②ありなし山古墳ウォーキングや遺跡公園散策、勾玉づくり体験など、地域の歴史にふれることで郷土愛を育む。</p> <p>・原小学生による和太鼓演奏、有年中学生による寸劇による防犯講座、原幼稚園児による地域の方との挨拶交流など、コロナ禍で距離の生じていた学校園と地域の交流を図る。</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>・マルシェやワークショップの開催を通して、地域の方の参加や来場、世代間交流、地域間交流を図る。</p> <p>③・この度は、原の子どもたちの素晴らしさ、素直さを赤穂市内の方に知ってもらおう、また少人数校のためか消極的な子ども達に、もっと自分に自信を持ってもらおう、有年(原)でもできるんだということを感じてもらいたく学校園に協力をお願いし活動した。お陰様で市内だけでなく、近隣の市町村や教育関係の方からも深く関心を持ってもらえた。今後は、小学校、中学校、幼稚園、教育委員会とも話し合い、子ども達により自信を持ってもらえるような企画をしていきたい。</p> <p>・地域学習の一環として、歴史にふれる体験をしてもらったが、今後は遺跡公園の環境づくりを一緒におこなうなどの計画もしていきたい。</p>
19	NPO 法人 生涯学習サポート兵庫(中播磨)	<p>①学校に行きづらい子どものための居場所 ひとやすみ</p> <p>②自然が豊かな「太子遊びと冒険の森 ASOBO」親子向けの居場所事業を行っている「こどもとおとなのイベントカフェ YAHOHOO!」の2つを拠点にして実施しました。</p> <p>太子遊びと冒険の森 ASOBO ではたき火森たんけんを、こどもとおとなのイベントカフェ YAHOHOO!ではパン作りや工作を実施しました。毎回簡単なクッキングをし、つくることの楽しさや、毎回の積み重ねで「できた!」と子どもたちの自信につながるようなクッキングプログラムを行いました。</p> <p>③初回活動時、子ども達の様子からは警戒・不安・緊張を感じましたが、回を重ねるごとに少しずつスタッフや一緒に活動する仲間との距離が近くなり、リラックスして過ごすことが増えました。クッキングや工作を楽しむ姿や、自然と触れ合うことも楽しむ姿が見られました。活動を継続して参加するうちに、学校に行きたくない・行けない理由や原因を自分から話してくれることもありました。</p> <p>保護者の方も当初は母子分離できず付き添いで参加していましたが、後半はスタッフにまかせたり、一緒に自分も活動を楽しんだりしていて、保護者の方にとっても少しリフレッシュできる時間となっていたようです。</p>
20	みあいっ子(中播磨)	<p>①みあいっ子 親子で楽しむ会</p> <p>②4月23日 笑顔を育む食農の会</p> <p>6月28日 みどりさんと職員クッキング①</p> <p>9月20日 木エワークショップ(椅子とメダル作り)</p> <p>9月27日 みどりさんと食育クッキング②</p> <p>9月30日 木エワークショップ(デッキと看板とイス作り)</p>

事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
	<p>③4月23日</p> <p>農家の方々との交流を通して、野菜の特徴や旬についての知識が深まった。作り手の思いを知ること、子どもも食べ物を残さず食べようとする意識が芽生えたようだ。</p> <p>6月28日、9月27日</p> <p>おくどさんで火をおこす、みんなで一緒に料理をするという非日常の環境も手伝って、こどもたちは興味を持って意欲的に取り組み、いつもは口にしない食材も喜んで食べる姿を見ることができた。</p> <p>母親たちは料理の中で、講師滝口さんから、子どもの心と体を作る食べ物、料理、食事についても学ぶことができ、各家庭でも日々の料理や食事で実践しているという声があり、非常に効果的だった。</p> <p>違う季節で2回実施したことで、子ども達は野菜の旬というものを感ずるヒントになったと考える。</p> <p>9月20日</p> <p>第1回目は、椅子作り、低年齢の子達はメダル作りを実施した。屋外の広場で椅子を組み立て、思い思いの色で塗ったり模様をつけたり、メダルは木はのみで飾るなど、子ども達は夢中になって取り組んでいた。自分たちで道具を使ってものを作る楽しみを体験してもらえたらと考える。</p> <p>9月30日</p> <p>第2回は、間伐の丸太を有効活用した、シーソー、丸太の椅子、ウッドデッキをつくった。丸太の椅子には柿渋を塗布し、ウッドデッキには絵の具で色を塗ったり、手形をつけたり、絵や模様をつけるなどした。ウッドデッキは普段の活動中の遊び以外にも、</p> <div data-bbox="1027 360 1385 622" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="550 1536 884 1975" data-label="Image"> </div> <p>みあいつ子の卒園式での舞台として使いたいと考えており、子供たちも自分たちが手をかけて作ったものとして思い入れを持ってもらえると思う。手院の一角に設置したことで、一般の方々にも見て使っていただき、活動や地域の輪を広げていけたらと思う。</p>